

経済レポート

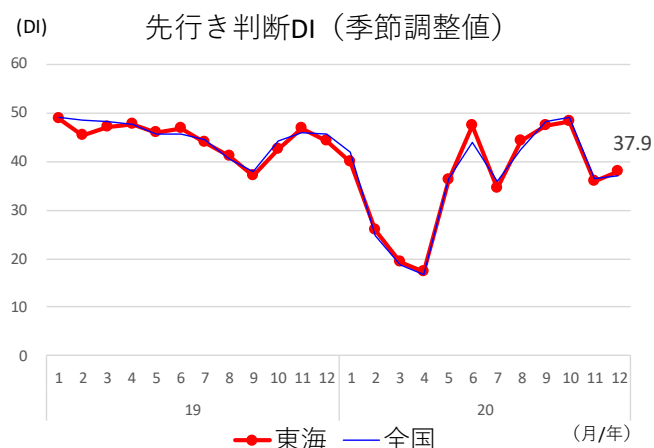
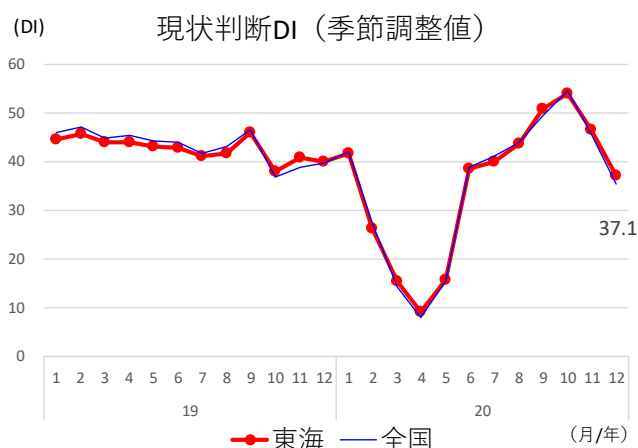
景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年12月)

～ 現状判断は悪化、先行き判断は改善 ～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 1月12日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の12月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-9.5ポイントの37.1と2ヶ月連続で低下した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+2.1ポイントの37.9と2ヶ月ぶりに上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス第3波拡大により、景況感は悪化している。先行きについては、感染再拡大による景気悪化が懸念されている。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス第3波拡大により、景況感は再び悪化している。先行きについては、感染再拡大による景気悪化が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、このところ弱さがみられる。先行きについては、感染症の動向に対する懸念が強まっている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

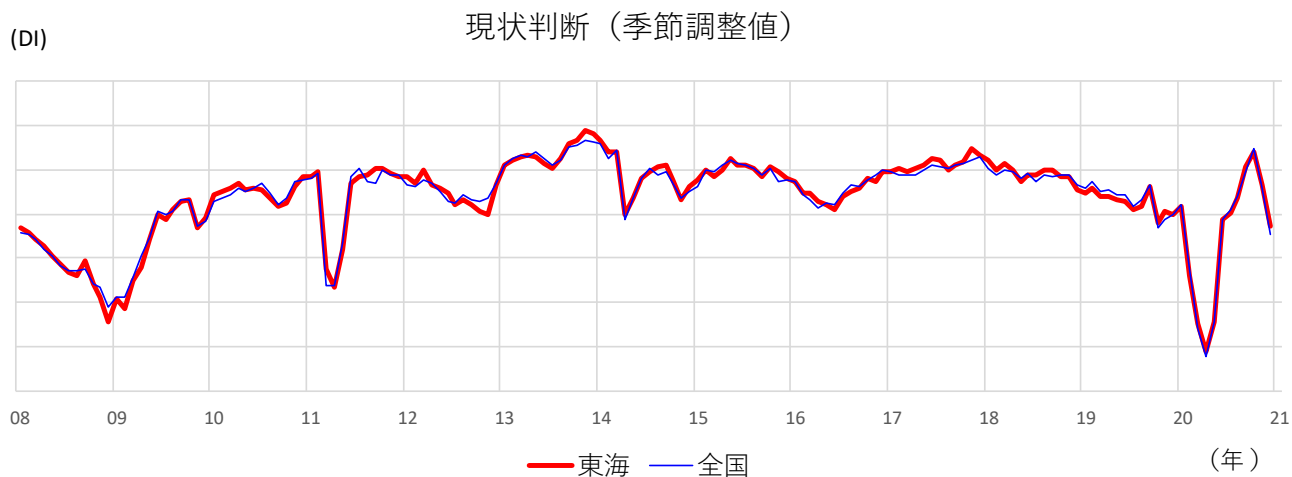
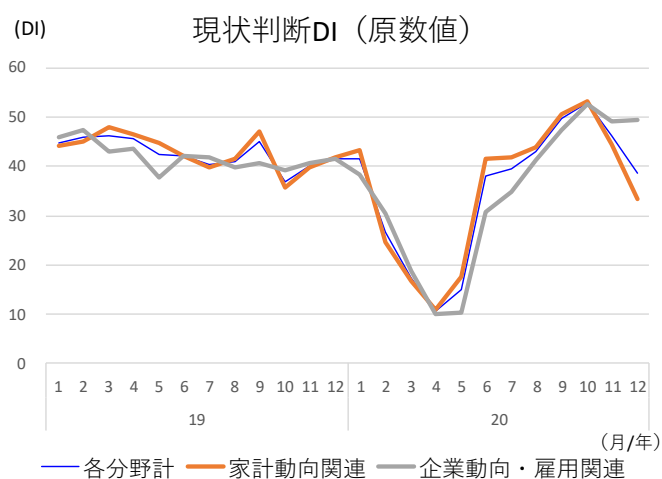
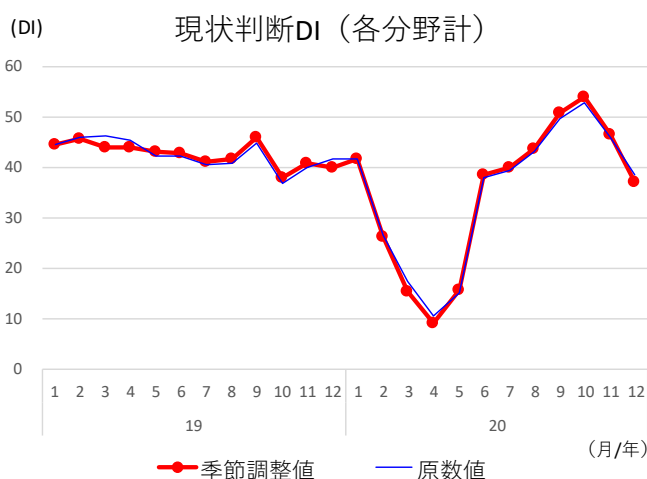
「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが残る中で、持ち直しに弱さがみられる。先行きについては、感染症の動向に対する懸念が強まっている。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI² (季節調整値)は、前月差-9.5ポイントの37.1と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。新型コロナウイルス第3波の拡大、Go To Travel キャンペーン停止が、景況感の一段の悪化につながっている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-11.2ポイントの33.4と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。一方、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+0.3ポイントの49.3と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は227、うち家計関連154、企業・雇用関連73。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI (原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

➤ 新型コロナウイルス第3波、Go To Travel キャンペーン停止が、景況感の一段の悪化につながっている。

▲	百貨店 (販売担当)	・客足が戻りつつあったが、新型コロナウイルス第3波により日ごとに減少している。ギフトシーズンのため購入意志の強い客の来店はあるものの、売上は伸びず厳しい状態である。
▲	コンビニ (企画担当)	・新型コロナウイルス第3波の影響を受け、戻りつつあった売上が再度減少に転じている。前年比で8割を下回る店舗が多くなってきている。
▲	乗用車販売店 (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大のせい、来客数、販売台数共に少なくなっている。
▲	都市型ホテル (総支配人)	・大都市でのGo To Travel キャンペーン停止に続き、全国でも1月11日まで停止され、宿泊は緊急事態宣言時より悪い。レストランは、県による21時までの時短要請もあり、クリスマス、新年の予約が激減している。宴会は、12~1月はほぼキャンセルである。
×	百貨店 (計画担当)	・新型コロナウイルスの第3波により、ここ1~2週間で急激に客の来店意欲が低下してきており、来客数が減少している。
×	一般レストラン (経営者)	・県の新型コロナウイルス対策として12月18日より時短営業を行っているが、多くて1日2名くらいの来客しかない。
×	旅行代理店 (経営者)	・Go To Travel キャンペーン停止に伴い、鈍化から完全な停止状態である。
×	旅行代理店 (営業担当)	・旅行業など観光業界において、年末年始のGo To Travel キャンペーンの全国一斉停止は多大なる損失である。新型コロナウイルス第3波拡大の影響と重なり、停止期間の旅行は取消しで、ここ数週間は新規申込みもほぼない状態である。せっかく9~11月に掛けて戻ってきた旅行需要が一気になくなった。

【企業動向・雇用関連】

➤ 企業動向・雇用関連では、改善方向の回答(「良くなっている」「やや良くなっている」)の割合が増えた。製造業を中心に、上向きとなっている業種も見受けられる。

○	一般機械器具製造業 (営業担当)	・北米、アジアの自動車向け設備投資はようやく底打ちした感があり、いまだ厳しい状況ではあるが、引き合いも増えてきた。
○	電気機械器具製造業 (総務担当)	・ギガスクール構想など政府の補助金の投入もあり、地方での光ファイバによるネット構築など通信インフラの高速化が進んでおり、来年に掛けてITメーカー、工事会社などの関係業者では受注が増えている。
○	輸送用機械器具製造業 (管理担当)	・年末に向けての買い出しで、出掛けない分、金が購入へ回っている感じである。
○	輸送業 (経営者)	・消費財の流通量は前年並みで安定している。生産財関連は、ばらつきはあるものの前年を上回る客が7割を超えてきた。
○	人材派遣会社 (営業担当)	・主要客の自動車メーカーとの請負取引は、予算削減の動きが継続しているが、一部の部署では4月以降の人手不足を見越した派遣取引の新規引き合いが発生しており、3か月前よりは景気が上向きに感じられる。
○	アウトソーシング企業 (エリア担当)	・自動車製造業関連の求人について、下期の目標達成を見据え募集案件が増えてきている。

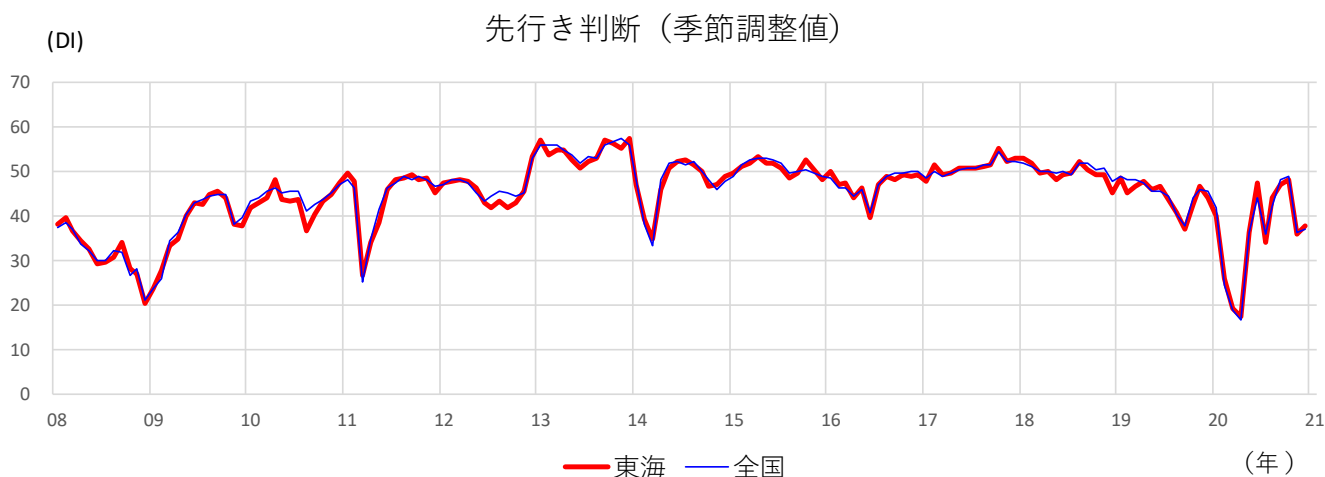
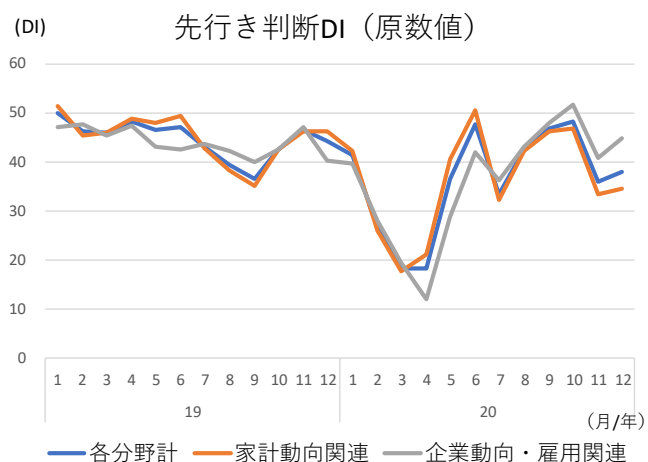
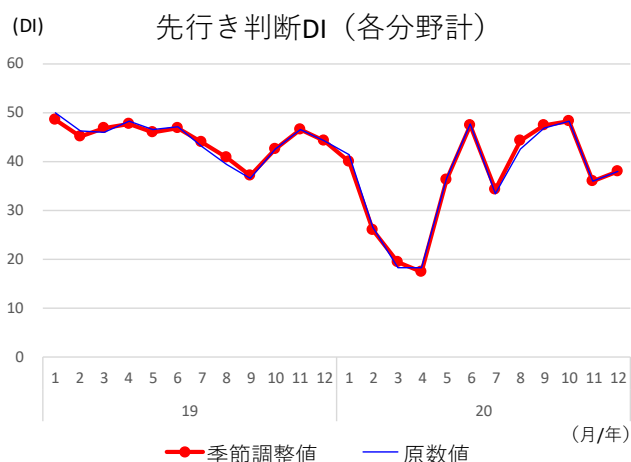
➤ 一方で「悪くなっている」との回答の割合も増えている。

×	鉄鋼業 (経営者)	・年末12月は1年で最も受注量、販売量共に多くなる時期であるが、今年他月と比べて同等か5%ほどマイナスとなる可能性もある。通常の年末よりも20%ほどの落ち込みになる。
×	輸送用機械器具製造業 (品質管理担当)	・航空業界はどん底で、社員も切られた。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+2.0ポイントの37.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を27ヶ月連続で下回った。前月の「やや悪くなる」から今月は「変わらない」とした回答者が増えたためDIは改善したが、水準は低い。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+1.2ポイントの34.6と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+4.1ポイントの44.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

- DIは改善したが、新型コロナウイルス感染が収束しない限りこれまでと変わらず厳しい状態が続く、一段と悪化するという見方が大半である。

□	商店街 (代表者)	・足元が極端に来客数の少ない状況であり、販売量、売上につながっていない。新型コロナウイルスの感染が落ち着かないと、来客数の伸びは期待できない。
□	百貨店 (企画担当)	・11月中旬から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、戻りつつあった来客数、売上の減少が顕著となった。この傾向は12月以降も継続しており、国内におけるワクチン接種が確定するまでは、景気回復は見込めないと思われる。
□	スーパー (店長)	・特効薬ができて新型コロナウイルス感染が収束しない限り、まだ今の状況は続くと思われる。
□	乗用車販売店 (営業担当)	・年末年始に行動を自粛することがあれば好転する可能性もあるが、見通しは良くない。業界では繁忙期に入るが、今は新型コロナウイルスが終息してくればという前提でしか、回復の見込みが立たない。
□	旅行代理店 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染が収まらない限り、このままの状況のような気がする。海外へ仕事だけでなくレジャーで人が動かないと本当に厳しい。国内旅行の個人客だけでは経営が難しいが、大手のように店舗を手放せず困っている。これまでもSARSや9.11などいろいろ乗り越えてきているが、かなり厳しい状況である。支援策を再度考えてほしい。
×	一般小売店 [生活用品] (販売担当)	・一旦は落ち着いたかにみえた新型コロナウイルス感染が更に心配な状況になり、年が明けた途端に自粛の雰囲気より強くなるように思う。
×	観光型ホテル (支配人)	・Go Toキャンペーン停止の影響で2~3か月先の予約もぱったりと止まり、宿泊客数も前年同期比で2割にも満たない状況である。新年以降も社会的・企業的な行催事もほとんどが中止となり、回復の兆しはみじんもなく全く見えてこない。手の打ちようがなく途方に暮れるばかりである。

【企業動向・雇用関連】

- 先行き判断についても、企業動向・雇用関連の見方は、家計動向関連に比べれば改善を見込む声の割合が高い。

○	窯業・土石製品製造業 (社員)	・車関係の生産回復で、金属材料生産用の消耗品の注文が増えており、しばらくこの傾向が続くと思われる。
○	一般機械器具製造業 (営業担当)	・世界の複数市場で引き合いの数が増えてきているので、景気回復を感じる。
○	輸送業 (エリア担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大で、発送、到着共に大幅に増加している。移動も自粛になり、更に通販が増加すると予測している。
○	その他サービス業 [ソフト開発] (社員)	・新型コロナウイルス禍でリモートワークが増えているが、生産性が高まらないことで要員提案の打診が増えてくると思われる。
○	人材派遣会社 (営業担当)	・来期に向けた人員補強の流れが出てくると思われる。3~4月は派遣契約更新のピークであり、契約満了での入替えや受入れ側の増員などもピークを迎えると考えられる。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。